

1993.7
第15号

博物館だより

大津市歴史博物館



丸木舟から蒸気船へ

琵琶湖の船展を開催

7月28日(水)～9月5日(日)

歴史博物館では、七月二十八日(水)から九月五日(日)まで、企画展「琵琶湖の船―丸木舟から蒸気船へ―」を開催します。

いまからおよそ四千年前、縄文時代後期の遺跡から丸木舟が出土しており、漁業などに利用されていた生活の様子を今に語りかけています。

以来、湖国のひとびとと湖は、船を媒介としながら深く結びついてきました。なかでも北国や東国の物資を京都へ運ぶ大動脈としての機能は、古代より重要な役割を果たしてきました。日本海の敦賀に集まった物資は湖北の浦々に運ばれ、そこから湖上を大津に向かい、そして大津から京都に運ばれていったのです。このため琵琶湖の諸浦は、多くの人々や荷物で繁栄しました。大津の地名も、こうした物資集散の地として賑わう大きな港、という意味から名付けられています。

明治時代を迎えると、それまでの和船から蒸気船の時代へと変化していきます。しかし鉄道の開業などによって、運搬という役割は終焉を遂げます。

かわって、琵琶湖の船は観光船の時代を迎えることとなります。

本展覧会ではこうした琵琶湖の船がたどってきた歴史を考古資料・絵巻物・屏風などをはじめ古文書や民俗資料、船の模型など、様々な角度から紹介します。

なお、会期中、催しものとして講演会・展示品解説や「丸子船」の現地見学会などを開く予定にしております。

企画展の概要

琵琶湖の船展では、次のような展示作品や催しものを予定してみなさんをお待ちしています。

◇琵琶湖の船展の展示は、

- I. 舟の誕生
 - II. 水運の始まり
 - III. 湖上水運の盛衰
 - IV. 琵琶湖の船とその形態
 - V. 船をめぐる人々と道具
 - VI. 湖を渡る人々と神々
 - VII. 蒸気船の登場
 - VIII. 観光船の時代
- の八部構成で開催します。

◇主な展示作品

- 彦根市松原内湖遺跡出土丸木舟
 (滋賀県教育委員会保管) 写真1
- 重要文化財「石山寺縁起」(石山寺蔵)
- 重要文化財「ハガセ船図絵馬」(新潟県白山神社蔵)
- 模本片田景因(東京国立博物館蔵)
- 「近江名所図屏風」
 (サントリー美術館蔵) 表紙写真)



写真 1

「一番丸錦絵」(個人蔵)

「丸子船模型」

*これらのほか約一三〇点の作品を展示します。

展示のほかにこの展覧会に関係する催しものとして、下記の講演会・展示品解説・現地見学会などを開催します。

◇講演会・展示品解説

- 八月七日(土) 午後二時～三時三〇分
 「琵琶湖の湖上交通」(木村至宏・本館館長)
- 八月二十八日(土) 午後二時～三時三〇分
 「湖と丸船のはなし」
 (橋本鉄男・元滋賀県文化財保護審議会委員)

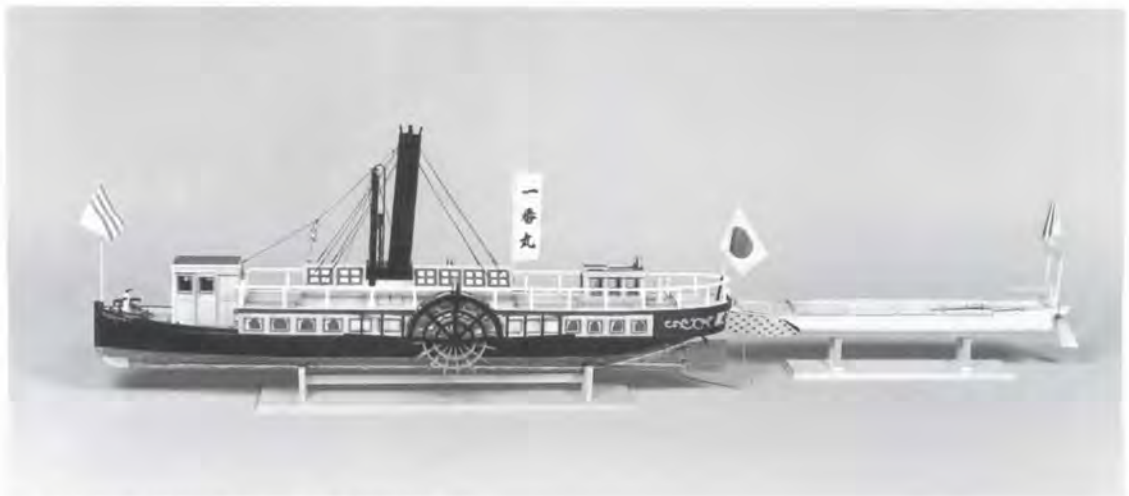
八月三十一日(土) 午後二時～三時三〇分
 「琵琶湖の船」展示品解説
 (和田光生・本館学芸員)

◇現地見学会

- 八月一日(日) 午前二時から午後四時
 ▲湖北、諸浦に最後の丸子船を訪ねて▽
 (コース)
- JR近江今津駅前(集合)——大浦(舟運まつり)
 ・大浦資料館・丸子船見学——菅浦(四足門・須賀神社)——海津大崎——海津(海津天神社)
 ——JR近江今津駅前(解散)

(募集定員) 五十名
 (参加費) 一、六〇〇円

*申込み等についての問い合わせは歴史博物館へ
 (大津市御陵町2-2、☎0775-21-2100)



汽船一番丸模型(石川県立歴史博物館蔵)

収蔵品紹介 ⑭

近江名所図 六曲一双

紙本着色 (各縦一六四・〇cm 横三二八・八cm)

描かれた近江の名所といえは、すぐに近江八景のことが思い浮かぶけれども、現行の八景が定められたのは桃山時代といわれる。ただし、近江の名所を歌題や画題としてとりあげてこれを愛でるといふ風習は、平安時代にまでさかのぼることができる。天皇の即位の大札である大嘗会において営まれた悠紀・主基の二つの仮殿のうち、悠紀方の内部に新調され飾られた屏風に描かれたものがそれである。そして平安時代以降、江戸時代にいたるまで、悠紀方は近江国が営む定めとなっていたため、近江の名所は歌に絵にくりかえし登場し、人口に膾炙していったのである。

さてこの六曲屏風一双は、越前の某家に伝来したもので、越前藩主松平家より下賜されたともいわれる。右隻には瀬田の唐橋と膳所城が描かれ、近江名所図と知られるが、左隻には場所を特定する要素が認められない。しかし左第二扇の特徴ある山容は、近江国内のいずこかの山を描くものであろう。

左から順にながめていくと、左義長を立てた集落があり、子供たちのはしゃぐ姿がみえる。左隻中央では、満開の桜の大樹が枝をひろげる。右辺では、牛を使役して田を耕す男、鳥おどしをめぐらせた田、田植えにいそしむ人々や、つるべを引いて田に水を流し入れる男など、多彩な農耕風景が点景としてあらわれる。これらは春から夏にかけての景観である。

右隻では、唐橋あたりを中心とした水辺で営まれる

風俗や道ゆく人々が主役を演ずる。橋の上で吊鐘を描いた掛軸をみせて喜捨をよびかける勧進の僧侶、物を商う女、駕籠にのったり行李をかついだりして街道をゆく旅人もあれば、刈取りにおわれる男たちや、投網をうつつ漁師の姿もある。毛並みの異なる馬や牛、また水鳥なども描きこまれ、日常の景物に対する作者の関心が想像される。紅葉の樹々もみられ、右隻は秋を中心とした風景といえよう。

このように本図は、たんなる名所絵というよりも、農耕図または風俗図的な性格も看取される。画面に散らされた金箔は後補のものだが、透明感ある色彩に満ちた画趣の高さは賞されよう。人物描写が住吉具慶のそれに近いとも指摘され、土佐派の作風が認められている。江戸時代前期の作。

(岩田茂樹)



右隻部分

「大北齋展」閉幕

平成五年三月二日から、朝日新聞社との共催で開催した「江戸が生んだ世界の絵師 大北齋展」は、四月十一日、大好評のうちに閉幕しました。

本展は、葛飾北齋(一七六〇—一八四九)の七十年にわたる画業を、その全作域にスポットをあてて紹介しようとしたもので、大英博物館など海外七館、ピーター・モリスコレクションをはじめ、国内二十余館からその作品を集め、出品数、内容の多様さからいっても、空前絶後の北齋展となりました。本館では、肉筆画六三件、版下絵・画稿・素描二七件、版本五九件、版画一五一件、摺物八九件、特別出品(北齋派水彩画)六件、参考出品(北齋肖像)二件の、計三九七件を展示。市内はもちろん、近畿各地から多数の観客を迎え、会期三六日間で、総入場者数は四一、二八八人に及びました。三期に分けて展示替えを行いました。三期に及ぶ展示替えが行い

ましたが、展示替えごとに来館された熱心なファンも少なくありませんでした。

なお、三月十一日には、本展監修者の水田生慈・太田記念美術館副館長の講演「北齋——人と作品」を開催、聴講者は一四二人でした。



「小野小町展」終わる

平成五年五月一日から、企画展「伝説の歌人——小野小町」を開催し、五月三十日、好評のうちに終了しました。

本展は、逢坂山に隠棲伝説があり、大津にもゆかりの歌人・小野小町をとりあげ、文学・美術や芸能に描かれた様々な小町像を集めて、小町伝説の諸相を紹介しようとしたものです。展示作品は、歌仙絵、歌集、絵巻、御伽草子、謡本、浮世絵、絵本番付など七八件。美人画から老衰の小町まで、多様な小町像を展示しました。各地に残る小町伝説地の遺跡の写真を集めたパネル展示も観客の関心を集めました。

会期は、二六日間で、総入場者数は六、〇九四人でした。



なお、五月十六日には、演劇評論家の権藤芳一氏を迎えて、講演会「能・歌舞伎に見る小野小町」を開催。聴講者は九七人でした。また、五月二十二日には、展示品解説「伝説の歌人——小野小町」を開催。聴講者は六三人でした。

博物館日記抄

4月4日
7月3日

- 4月4日 「江戸が生んだ世界の絵師——大北斎展」観覧者数三万人に達する。岡本義生朝日新聞大津支局長、木村至宏館長から京都市上京区稲垣義一さんに記念品贈呈、一日の観覧者数二千三百八十二人の新記録をつくる
- 8日 花園大学文学部二百九人來館
- 8日 親子歴史体験講座「石器づくり」に挑戦」開催
- 11日 大北斎展閉幕、会期中の観覧者四万二千二百十八人、図録頒布六千三百三冊いずれもいままでの記録を大幅にぬりかえる
- 14日 ローレンス・スミス氏（大英博物館日本美術部長）來館
- 15日 守山女子高校百十六人來館
- 16日 林屋辰三郎顧問日本学士院会員選任を祝う会開かれる
- 17日 第65回土曜講座「琵琶湖の船」
- 23日 波多野重雄氏（八王子市長）・小野重彦氏（いわき市長）來館
- 25日 京都橘女子大学七十三人來館
- 5月1日 「伝説の歌人——小野小町」展開場式およびレセプションを開く、一般公開
- 7日 第17回運営会議、館内会議開く
- 8日 親子歴史体験講座「三井寺の文化財散歩」
- 9日 奈良県橿原中学校百九十五人來館
- 12日 中島勝利氏（県警察本部長）來館
- 16日 味村治氏（最高裁判所判事）・川島信也（長浜市長）來館
- 21日 近畿管区内公安委員会五十一人、榊原野田

八幡宮司（刈谷市）來館

- 22日 第66回土曜講座「小野小町展列品解説」岡田英男氏（奈良大学教授）來館
- 28日 大阪大学文学部国史研究室一行來館
- 29日 第67回土曜講座「和紙本をつくる」講師 榎英男名古屋博物館学芸員
- 30日 「伝説の歌人——小野小町」展閉幕
- 6月1日 近江八幡市地域振興課、綺田月光会（蒲生町）來館
- 2日 陣邦柱中国湖南省長（中国湖南省政府代表團長）ら來館、館内会議開く
- 4日 今仲康之氏（県総務部長）、田附源太郎・安居吉二（彦根城博物館）両氏來館
- 9日 皇太子御成婚にともない常設展無料、岩見謙三本館専門員告別式
- 12日 親子歴史体験講座「おりがみをつくる」
- 16日 西山真昭氏（三重県成願寺）ら一行來館
- 19日 ふるさと大津歴史教室（大津別院と街並み博物館通り周辺）
- 25日 京都北野西方尼寺資料調査
- 26日 ふるさと大津歴史教室「膳所焼と記念寺」定員百名の二倍半の申し込み
- 7月1日 第8回博物館協議会を開催
- 3日 ふるさと大津歴史教室「葛川渓谷に文化財を訪ねて」

博物館だより 第15号

発行日 平成五年七月二十七日
編集 大津市歴史博物館
発行所 大津市御陵町二二二

大津市歴史博物館
電話（〇七七五）二二二二〇〇代